

「いのちの輝き展」

支え合ういのちと愛
千葉骨髓バンク推進連絡会

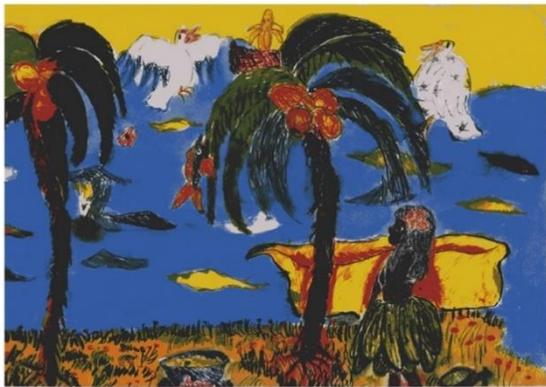
- 日程 2025.8/ 6(水)～8/17(日) 佐倉南図書館 (17日は午後4時30分まで)
2025.8/19(火)～8/31(日) 夢咲くら館 1階
2025.9/ 2(火)～9/12(金) 佐倉市役所 1階ロビー
- 主催・問い合わせ 千葉骨髓バンク推進連絡会 043-497-5083

展示イメージ 「あやちゃんの贈り物」「MAMOのメッセージ」ほか



あやちゃんの贈り物

念願の骨髓移植を受けられぬまま、7歳9ヶ月で亡くなった小さな画家・あやちゃんは、白血病と闘いながら、わずか2年ほどの間に8千枚もの絵を残しました。その頃、今のように骨髓バンクが出来ていたら、あやちゃんはさらに素晴らしい絵を描いていたにちがいありません。

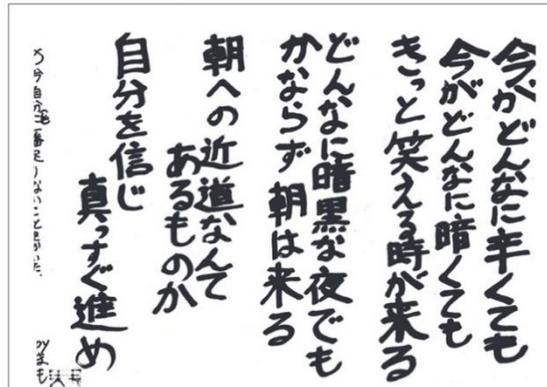


「果のなかのパナマ」一年二歳彩子



MAMOのメッセージ

白血病のために17歳という若さでこの世を去った小野寺守さんが、個室の病床で一人孤独と闘いながら、自らを励まし続け書き綴った心のメッセージです。力強い筆跡と率直でまっすぐな文面に触れるとき不安な気持ちの底知れぬ深みにあっても、未来を仰ぎ見て生きていく尊さを側々と教えてくれます。



千葉骨髓バンク推進連絡会は、骨髓移植により白血病や再生不良性貧血の病気から健康を取り戻した子どもたち、残念なことに骨髓移植が出来ずに亡くなった子どもたちの絵画などを「いのちの輝き展」として開催しています。

作品の中で語られる、病気のこと、治療法のこと、病室の友達のことなどを通じ、一人でも多くの子どもたちにいのちの尊さ、健康のありがたさ、そしてみんなが助け合うことの大切さを感じてもらえたら幸いです。

また骨髓バンクのことを知って欲しいと願っています。